

UDLM

5

vol.293

May 31st
2020

傍の
一齣に心を留めて

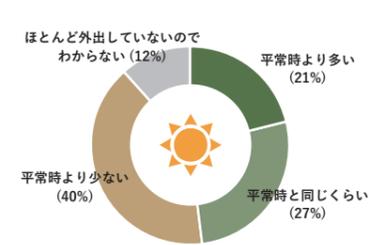
p.2 都市工学生が観る With Corona 社会
p.3 編集部が選ぶ"傍の一齣"
p.4 新 B4 メンバー紹介！

都市工学生が観る With Corona 社会

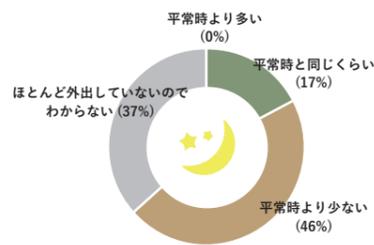
言うまでもなく、With Corona 社会において、都市のあり様は大きな変容を遂げている。我々都市工学を専修する者は、自らの行動変化のみならず、都市を客観的かつ俯瞰的に観察し、そのあり方を捉え、考える義務があるの

ではないか。ここでは、With Corona 社会・After Corona 社会について都市工学専攻の学生（B3-M2 生）を対象に行なった Web アンケート（有効回答数：52）の結果をまとめた。

Q.1 自宅付近の街路における人の多さは平常時と比べてどう感じますか（昼間 / 夜間）

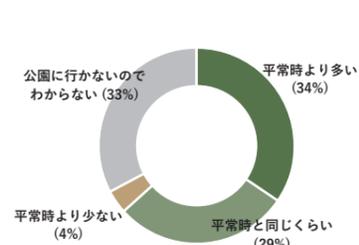


昼間の街路は、人が「平常時より多い」の回答も多く見られた。実際、サラリーマンや学生に加え、家族連れが歩く姿を多く目にする。



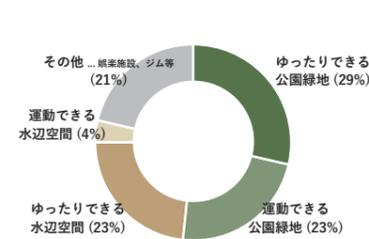
夜間になると人が「平常時より多い」の回答は皆無であり、もとより「ほとんど外出していない」という回答も多く見られた。

Q.2 自宅付近の公園における人の多さは平常時と比べてどう感じますか



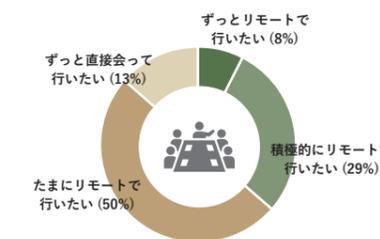
公園は街路（昼間）に比べ、更には人が「平常時より多い」との回答が多く占めた。室内施設を閉ざされた市民の受け皿となっているのだろう。

Q.3 自宅付近に不足している or 無くて最も欲しいと思うものはなんですか

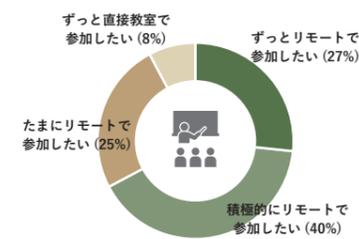


滞在目的の公園緑地や水辺空間の需要の高さは想定内であったが、運動できる公園緑地を求める声が想像より大きな割合を占めた。

Q.4 After Corona 社会におけるリモートワークについてどう思いますか（ミーティング / 授業）



高頻度でのリモートミーティングには否定的な声も多く、対面で議論することの価値は代え難いものなのだと考えられる。



リモートでの授業参加には積極的な声が多い。特に1限や他キャンパス講義への参加ハードルが下がったことは大きなメリットであろう。

Q.5 With Corona 社会の都市の変化やリモートワーク、また After Corona 社会の都市のあり方について、自身の所感や考えを自由に書いてください

With Corona	リモートワーク	After Corona
距離を取る意識から人を気にするようになり、近所の人の顔や行動を記憶できるようになった	お茶を飲んだり一時的に離席したり、リラックスして受講できる	住宅の間取りは変わりそう。自分も寝室（生活空間）と zoom で見られても良い書斎のある部屋を分けたい
ニュータウンは普段都市的な刺激が少なく物足りなかったが、今は豊かな歩行者ネットワークや自然のおかげで快適に生活ができています	全ての本や資料が手元にあるので参照しやすい	経済活動の多様化に伴って地方に人口流動した場合、各行政の都市計画が迅速に対応できるかで、自治体間に大きな差が生まれるのではないかと
スーパーのピークタイムが変化している	単純業務の意思疎通は問題ないように感じる。ただリモートだと雑談しにくく、言動以外の人の反応を見づらいという点で窮屈にも感じる	公共交通利用が大きく減少すれば、民営独立採算モデルからの転換が迫られる。加えて、「移動を増やすことが活動を増やすこと」という前提が崩れ、交通を巡る見方も変わってくるのでは
通り抜けに使う地下街や商業施設が多くあり、それらが閉まると移動に困る	ドタキャンしても相手の損失が少ないからか、集まりが流れる確率が高まった	ここに挙げた以外にも、たくさんの記述を頂いた。私が感じているのは自宅内部で複数の用途空間が欲しいということ。ただし、都心で複数の部屋を持つ物件は、1人暮らしの学生には到底手の届くものではない。住宅内部のワンルームにおいて、1日単位での「可塑性」が求められるような気がしている。

編集部が選ぶ " 傍の一齣 "

忽忽たる日常にあっては、かえって身近な風景が疎遠になっていたという人も少なくはないだろう。現在、公共交通を用いた外出が自粛される中で、自宅付近を逍遙する機会が増加し、その風景に目を向け新たな気付きを覚

る良い契機となっているのではなかろうか。ここでは、当マガジン編集部員が選んだ、身近な風景の一齣を紹介する。

港の変貌

ここ五年間ほぼ実家に居ず、こうやってアモイで散歩できるのを嬉しく思う。ここは沙坡尾というところで、元々民家は壊される予定だったが、住民の反対により保存された。現在は若者が経営するカフェやギャラリーになっている。旅行者が少ない沙坡尾は久しぶりだ。(M1 陳)



住宅街の中の異世界

道路側から見える小さな門を入ると、コンパクトながら竹林や桜、松の木が植えられ、住宅街から切り離された異世界に入ったような感覚になる。癒しを与えるオープンスペースが公園だけではないことに気づかされる。(M1 松坂)



民族の祭典

埼玉県庁前の「TOKYO 2020」のフラッグ。大きな期待が寄せられていた夢の祭典は延期が確定し、もはや皆の意識の埒外となったように思われる。心なしか、曇り空にはためか姿が美しく感じられた。(M1 藤本)



閉ざされた居場所

近所のポケットパーク。遊具には「KEEP OUT」のテープ。このような状況下では仕方ない措置なのだろうが、憩いの場であり、子供たちの居場所である公園・パブリックスペースのあり方を考えさせられた。(M1 河崎)



" 非日常 " の鉄道風景

橋上から臨む train view。生活機能の集積から駅付近を立ち寄ることはあれど、鉄道そのものを目にする機会は大きく減った。日々の喧騒にあっては厭忌されがちな列車の走行音すら、今となっては愛おしい。(M2 西野)



自然、低密 - 崖下の再発見

ニュータウンから一歩出ると、そこには市街化調整区域の長閑な田畑が広がる。幼い頃にこの道で野兔を追いかけた思い出が、都市住民としては実は貴重なものだったと気付いた。(M2 應武)

活動「単位」の変化

散歩する家族連れの姿。以前は公園には子ども、街路にはジョギングをする大人、スーパーには主婦とお年寄り夫婦、が恒例であったが、この頃は公園にも街路にもスーパーにも、家族単位で訪れる姿が多い。(M2 宗野)



コロナ下のご近所付き合い

近所を散歩中の一場面。建てつまった各家から緑が豊かに溢れ出している。Social distancing の一方、挨拶や近況報告をしあっており、積み上げられてきたご近所付き合いの重要性を感じた。(M1 鈴木)



新 B4 メンバー紹介！

今月、学部4年生の研究室配属が決まり、都市デザイン研究室には5名の新しいメンバーが加わった。これからの1年間、卒業制作・卒業論文に取り組み、これまで以上に都市と自分に向き合うことになる。お互い切磋琢磨して研究を進めてくれることをとても楽しみにしている。

今回は5つの質問から個性豊かなメンバーの素顔に迫った。

- ①出身地
- ②趣味
- ③都市デザイン研究室を選んだ理由
- ④好きなまち・都市とその理由
- ⑤これが私の新しい生活様式！今の自宅に設備・機能を足すなら



Minaho KAMATA 鎌田南穂

- ①東京都杉並区
- ②漫画を読むこと、絵を描くこと
- ③演習や講義を通して、具体的な土地を題材にデザインをする過程に難しさと面白さを感じたから。

④吉祥寺／グラウンドレベルの回遊性がとても高く、街のサイズ感も1日楽しむのに「ちょうどいい」街だと思うから。地元ですが行く度に面白いお店や空間に出会えて楽しいです！

⑤趣味やビデオ会議に集中できる静かな屋根裏部屋



Manaka HATAOKA 畑岡愛佳

- ①東京都足立区
- ②ジョギング、ヨガ、ハイキング、写真
- ③公共空間をデザインできる人になりたいから。研究室の雰囲気が良さそうだから。

④ Berkeley, CA / 鳥のさえずりだけが響き渡る静けさと、前庭から溢れ出る花々が放つ甘い香りと、カラッとした空気に降り注ぐ太陽光の暖かみは今でも鮮明に思い出せる。

⑤青空と星空が見える天窓



Momoko ISOGAI 磯貝桃子

- ①三重県四日市市
- ②国内旅行、カフェ巡り、ショッピング
- ③考えたことをデザインに起こすことが好きなのと、先生と先輩方が好きだからです！

④吉祥寺／街と自然のバランスの良さが好きです。公園で人々の多様なアクティビティを見るのが好きなので、井の頭公園もすごくお気に入りです。

⑤猫カフェが欲しいです。豆柴でもハリネズミでも。癒しが欲しい…



Tomoki GODA 合田智揮

- ①群馬県高崎市
- ②読書
- ③様々迷いましたが、デザインに振り切りアートに溺れ情熱に人生を賭ける決意を固めました。

④高崎／生まれ育ったまちの規模感が身体に染み付いていて、1時間に1本の循環バスや、庭裏の雑草だらけの農水道に愛着を感じています。

⑤防音機能がほしいです。部屋でzoom飲みしていると妹にうるさいと言われてしまうのが最近の悩みです。



Yuto MIYAZONO 宮園侑門

- ①大阪府茨木市
- ②ポリビア音楽・舞踊、一人旅
- ③理論とともに、現実の都市へどう関わるかを常に探究しているから。

④カイロ／気の遠くなるような時間の積層、幾重もの文化の混在と人々の喧騒。砂漠気候と安い飯。

⑤つよいPCと無制限の固定回線...あと本棚。屋上もほしい。スイカ割りしたい

COLUMN

BOOK OF THE MONTH



ハビタ・ ランドスケープ

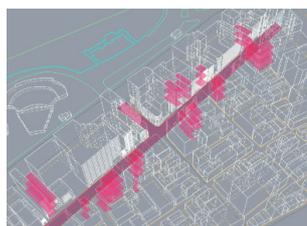
滝澤恭平
2019 木楽舎

推薦者
M2 松本

「ハビタ・ランドスケープ」は、人間が棲むために土地に関わった結果、自然と人為の相互作用の中で生まれてきた風貌。人類が積層してきた人為的な要素と地形、水系、生態系など自然的な要素のせめぎ合いや交じり合いを切り口に様々な空間を読み解く一冊。

WEB MAGAZINE

続きは都市デザイン研究室 HP で！
<http://ud.t.u-tokyo.ac.jp/a/blog/>



上野PJの次の一手

5月に開催を予定していた第2回A&S運動は延期になってしまいましたが、COVID-19を受けて地元ビルオーナーと考えているアイデアの一部と、上野PJとして取り組むテーマを紹介します。(M1 園部)



復興デザインスタジオ

今年度のスタジオでは、COVID-19によって高密度な東京の都市構造が揺らぐ中で、首都直下地震など様々な都市リスクを複合的に考えながら、2050年の東京の都市像を議論しています。(M1 河崎)

LOOKING BACK AT MAY

- 13th アーツ&スナック
運動実行委員会
15th 新 B4 歓迎会
25th スタジオ課題②発表
研究会議 7th,19th,28th

POSTSCRIPT

列車は多くの人々を目的地へ運ぶ。大学、仕事場、繁華街、そして大切な人が待つ所へと。彼らの生活の軌跡が線路には刻まれる。線路に触れ、それぞれの story に思いを巡らす。さあ、発車は間近だ。(M2 西野)